

(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな改善の動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

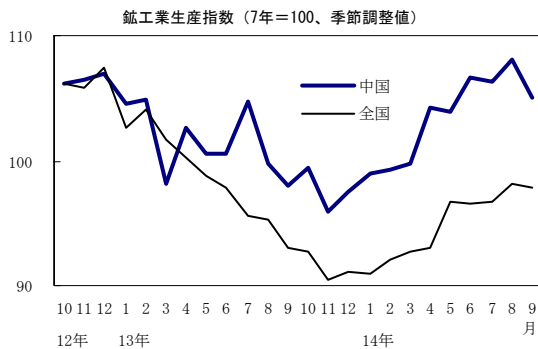
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
鉱工業生産	増加	増加傾向	↓
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	↓
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

化学は、プラスチック、樹脂等がアジア向け輸出を中心に増加していたが、このところ減少している。一般機械は、印刷機械、一般用ボイラ等が減少している。鉄鋼は、輸出向けや自動車向けの需要増などから増加しているが、そのテンポは緩やかになっている。電気機械は、液晶や半導体集積回路を中心に、国内向け、輸出向けともに大幅に拡大していたが、減少に転じている。自動車は、北米向けの輸出が好調であり、新型車効果もみられて増加している。



(備考) 平成 14 年 9 月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

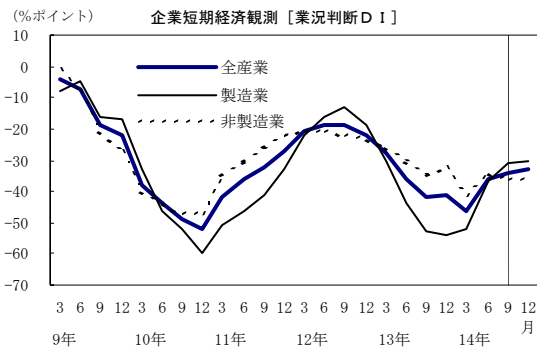
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	16.5	9.9	▲2.6	▲1.6	▲1.2
一般機械	11.5	6.3	▲0.2	0.8	▲13.3
鉄鋼	11.4	7.5	2.5	5.6	▲3.7
電気機械	10.3	13.8	▲5.3	32.1	9.1
自動車	9.8	4.8	12.0	10.0	12.0
鉱工業	100.0	5.5	1.5	2.4	▲4.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

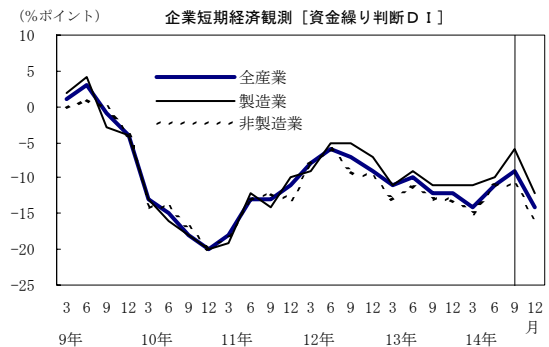
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

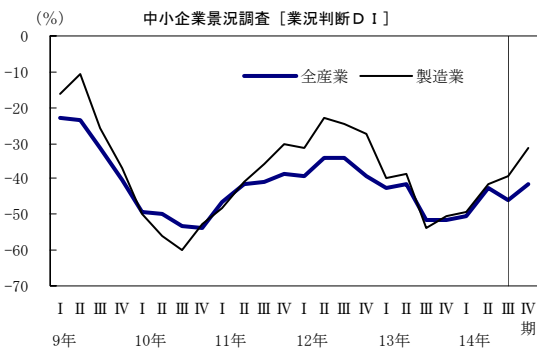
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「客の新商品に対する反応はますますであるが、主力商品については依然低迷しており、トータルでは変わらない状況である (一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

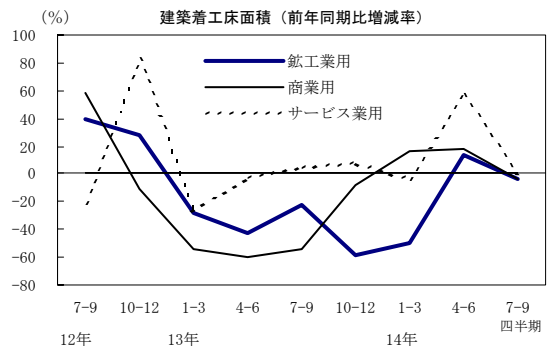
企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲13.9	▲5.0 (0.9)
製造業	▲12.9	▲9.5 (0.1)
非製造業	▲14.9	▲0.6 (1.7)

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

() は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

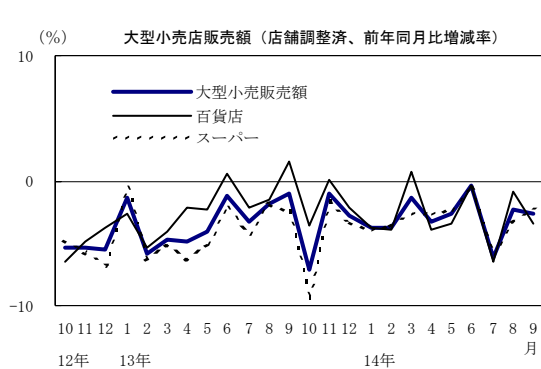
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月にクリアランスセールの前倒しによる反動により大きく減少した後、8月に気候要因等によって衣料品等が減少となり、9月に身の回り品等がプラスになったものの、主力の衣料品が減少を続けたことによって、全体では前年割れしている。

スーパーは、7～9月期を通して飲食料品等、微増となる品目もあったが、衣料品をはじめほとんどの品目が低調であったことから、前年割れが続いている。

景気ウォッチャー調査（10月調査）〔家計動向関連D I（現状判断）〕

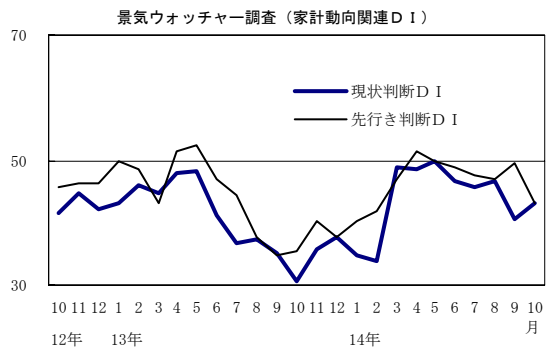
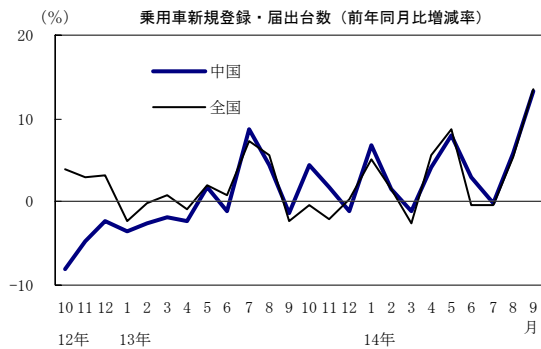
「イベントがたくさんあり人出もあった割には、タクシーの利用が少なく、3か月前と売上は同じくらいである（タクシー運転手）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲3.6	▲3.0	▲2.1	▲3.9
百貨店	▲2.0	▲2.2	▲2.6	▲4.0
スーパー	▲4.7	▲3.4	▲1.8	▲3.8
乗用車	1.7	1.3	4.8	6.3
景気ウォッチャー	34.7	39.2	48.4	44.3

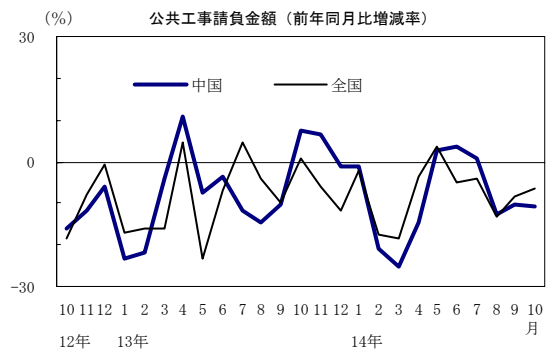
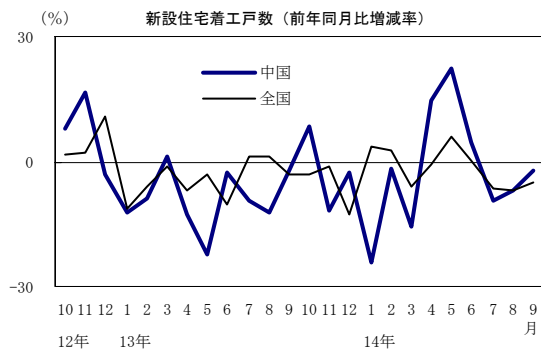
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいである。

持家を中心に前年を下回ったが、基調としてはおおむね横ばいである。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

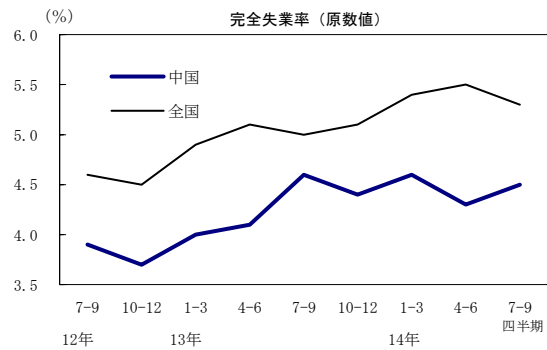
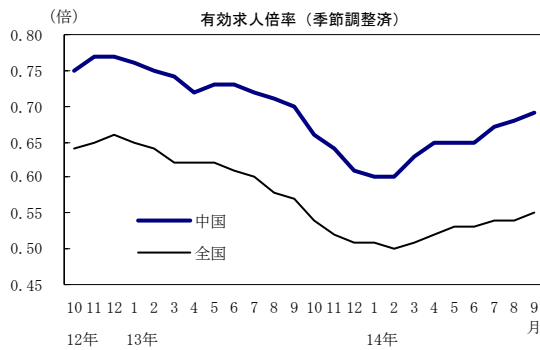


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

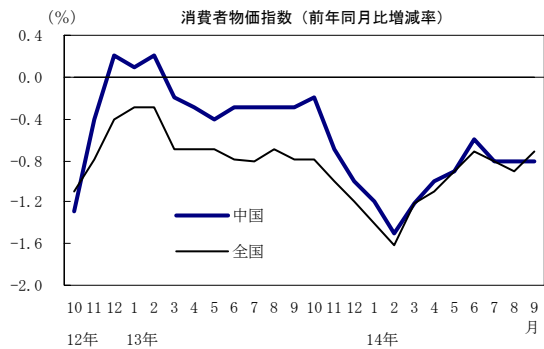
「製造業のリストラの動きは、一時的かも知れないが収まっており、新規求職も横ばい状態となっている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	231	233	220	248	102
(前年比)	▲11.5	▲7.9	▲15.1	6.0	18.6
負債総額	553	975	480	850	270
(前年比)	▲50.1	44.1	▲28.7	▲11.5	102.5



○ 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・3か月前は休日出勤や残業をしなければ追い付かないほど仕事が多くあったが、今月は定時間でも間に合うくらいにまで仕事量が減ってきている (金属製品製造業)。

<先行き>

- ・中高年を軸とした早期退職が増えているが、受け皿はほとんどない (人材派遣会社)。

